

キャリア発達段階表(高等部普通科)

職業的(進路)発達に関わる諸能力	高等部普通科段階において育てたい力	内容	評価の観点	
人間関係形成能力				
	1	社会との関係における自己理解、他者の考えや個性の尊重	(1) 体験の積み重ねを通して、自己の能力や適正を知る。 (2) 他者の考えや個性を尊重し、自分との差異を認めながらも受容する。	① 様々な活動を受け入れ、取り組むことができる。 ② 活動を振り返り、できること・できないことを知る。 ③ 自分の能力や適性を知る。 ④ 他者の考えや個性を知る。 ⑤ 自己と他者の違いを意識する。 ⑥ 他者を受け入れることができる。 ⑦ 他者から学ぶことができる。
		集団(チーム)の一員としての役割遂行	(1) それぞれの集団における立場を理解して、協力・共同して活動に取り組むことができる。	① 集団には様々な立場の人がいることを理解する。 ② 集団における自分の役割を理解する。 ③ 集団の中で自分の役割を果たすことができる。
	3	必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力	(1) 必要な情報を伝えたり、自分の悩みを話せたりする関係を築き、自分の思いや意見を適切に伝える。	① 自分の思いや意見を自覚する。 ② 自分の思いや意見を説明することができる。 ③ 友達や教師など身近な人に、自分の悩みなどを相談することができる。 ④ 自分の思いや意見を適切に伝えることができる。
	4	TPOに応じた言動	(1) 場や状況に応じて、適切に話すことができる。	① 一方的に自分のことだけを話すのではなく、相手の話を聞いてから話すことができる。 ② 必要に応じて、敬語を使うことができる。 ③ 場や状況に応じて、適切に話すことができる。
			(2) 場や状況に応じた服装、身だしなみを心がけることができる。	① 相手に不快感を与える服装や身だしなみを知る。 ② 指摘されて適切な服装や身だしなみを心がけることができる。 ③ 場や状況に応じた服装や身だしなみを心がけることができる。
情報活用能力				
	1	職業生活・社会生活に必要な事柄の情報収集と活用	(1) 職業生活や社会生活に関する課題や目的に応じて主体的に情報収集したり、活用したりする。	① 情報収集のためのツールについて理解する。 ② 活用すべきツールを選択できる。 ③ ツールを活用して必要な情報を収集・選択する。 ④ 選択した情報を生活の中で活用する。
	2	安全性、効率を考慮した補助具や情報機器の学習や生活への活用	(1) 自己の障害を理解し、安全性、効率に考慮した補助具や情報機器の学習や生活への活用ができる。	① 自己の障害や生活上の課題を知る。 ② 補助具や情報機器の活用の仕方を知る。 ③ 自分に合った補助具や情報機器を選択する。 ④ 日常生活の中で応用して活用する。
	3	社会のさまざまな制度やサービスに関する理解と実際生活での利用	(1) 自己に応じた様々な福祉サービスについて主体的に調べ、将来の生活に向けて活用できる。	① 社会の様々な制度や福祉サービスについて理解する。 ② 自分に合った制度や福祉サービスを選択する。 ③ 自ら選択した制度や福祉サービスを活用することができる。
	4	労働と報酬の関係の理解と計画的な消費	(1) 将来の消費生活における課題について調べ、その課題に応じた自己の生活を設計することができる。	① 労働と報酬の原理について理解する。 ② 実生活における計画的な消費について考えることができる。 ③ 将来の消費生活について考えることができる。
	5	職業及び働くことの意義と社会生活において果たすべき役割の実行	(1) 就業体験や多様な職種の人との交流、自ら調べることを通して働くことの意義や役割について考える。	① 様々な生活や仕事について自ら調べ、理解する。 ② 就業体験を通して、自分の将来の仕事や生活について考える。 ③ 働く人々に自ら働きかけ、収集した情報を基に、働く意義や役割について知る。 ④ 自己の職業観をもつ。

将来設計能力			
	1	職業生活に必要な習慣形成 (1) 家庭・学校・社会生活の様々な場面において自分のやるべきこと理解し、その役割を果たすために自分の生活を管理、維持していくことができる。	① 社会生活に必要な基本的な生活習慣を身に付ける。 ② 健康について知識を身に付け、自己の健康管理ができる。(生活の管理、医療機関の利用、服薬の管理など) ③ 安全のための環境を整えることができる。 ④ 仕事と生活を組み立て、見通しをもって生活を計画できる。 ⑤ 将来の自分の職業を想定した体力を身に付ける。
	2	働く生活を中心とした新しい生活への期待 (1) 生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。	① 自分の適性を考え、職業調べなどを通して現実的な進路選択ができる。 ② 自分の生活をよりよいものにしていこうという意欲をもち、進んで課題に取り組む。
	3	職業の意義の実感と将来設計に基づいた余暇の活用 (1) 自己実現に向け、働くことや余暇活動に意欲的に取り組む。	① 自分の仕事や役割に責任をもって最後まで行う。 ② 趣味を広げ、自分で楽しむことを増やす。 ③ ストレスの解消法を考える。 ④ 地域活動、生涯学習などの利用を知る。
	4	将来設計に結びつく進路計画 (1) 自らの生活設計(ライフプラン)を考える。	① 進路を見据えたライフプランを作る。 ② 社会生活、職業生活に必要な情報を選択し活用する。 ③ 将来設計、進路設計の見直しや再検討を行い、実現に向けて取り組む。
意思決定能力			
	1	将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取組 (1) 将来の進路に基づいて当面の目標を立てて、その解決に向けて取り組む。	① 将来の進路希望を持つ。 ② 将来の進路実現までの道筋を意識する。 ③ 将来の進路に向けて当面の目標を立てる。 ④ 将来の進路目標に向けて自分が今すべきことに取り組むことができる。
	2	就業体験などの経験に基づく進路選択 (2) 就業体験などの経験を基に、自分の意志と責任で主体的に進路を選択する。	① 自分の就きたい職業を考える。 ② 体験に基づき自分の意志と責任の下に主体的に進路選択ができる。
	3	就業体験などにおいて行った活動の自己評価 (3) 就業体験を通して、より客観的、肯定的に自己を評価する。	① 就業体験での自分を客観的に評価することができる。 ② 体験を通して、自分の能力や課題に気づくことができる。 ③ 他者からの客観的評価を受け入れ、課題に対する今後の目標や手立てを考えることができる。
	4	課題解決のための選択肢の活用 (4) 戸惑いや葛藤などに対して、様々な選択肢の中からよりよい選択をする。	① 問題解決のための様々な選択肢の意味を理解することができる。 ② 自分の困難な状況を正確に把握する。 ③ 解決方法を選択することができる。